

地域懇談会実施報告書

自治会名 中綱自治会
開催日 平成20年6月19日(木)
時間 午後7時～午後8時50分
開催場所 中綱生活基幹改善センター
参加人数 15名
懇談内容 別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

- ・中綱湖の湖面上昇と河床工事について
- ・深山水害復旧工事の今後の見通しについて

対応
なし



事務局参加者 氏名

大町市連合自治会事務局

遠山 勝

平地区連合自治会事務局長

傳刀 孝男

平地区連合自治会事務局

勝山 直人

記録者 勝山 直人

中綱自治会地域懇談会会議録

平成20年6月19日

(19:00開始)

開会あいさつ

中綱自治会長 あいさつ

事務局参加者紹介

市長あいさつ

地域懇談会は昨年6月17日の第1回目から数えて今回でちょうど50番目の自治会、32回目の開催となる。市内の全自治会数が99であるので、半数を超える自治会で開催されたことになる。

一昨年までは市政懇談会ということで、あらかじめ各自治会からご質問・ご要望をいただいて市から回答するというような議会のようなスタイルをとっていた。平地区という大きなまとまりで開催されるため自治会の役員以外の市民の皆さんになかなか出席していただけなかったこと、あらかじめ市が用意した回答書を読み上げるだけで形骸化しているなど「風通し」が良くなかったという声を受けて、大町市連合自治会にご理解とご協力をいただき「地域懇談会」を開催している。

大町市に限らず、国も地方も新しい時代に向けて大きな節目を迎え、行政への市民参加と協働が重要視されている。協働で地域づくりをしていただくためには、行政の取り組みや考え方をまず市民の皆さんにお伝えして、市民の皆さんもこの地域をどうしていきたいかを一緒に持ち寄って考えていくことが必要である。行政がこれまで培ってきたノウハウだけでは解決できない新しい課題や、財政状況が豊かであれば解決できる問題に効果的に対処していきたいと考えたのが、住民の皆さんとの協働という新しい取り組みを始めた背景である。

中綱地区の皆さんはもともと地域づくりに熱心な方が多い。昨年はフジバカマの畑に飛来するアサギマダラが話題になり、私も実際に見にきた。中綱湖畔の見事なオオヤマザクラを目当てに写真を撮ったり絵を書いたりする人が多く訪れている。市内でも観光のメッカとなっており、特に冬場はスキー場が中心となる。今シーズンは県下全域で昨年より来場者が増えたというが、最盛期に比べればだいぶ少なくなった。今後はスキー場もそれを取り巻く環境も含めて地域の魅力をさらに磨き上げることによって、スキーシーズンもその後も多くの方に訪れてもらえるようにすることが重要ではないか。

築場駅前に市で公衆トイレを整備する過程で、湖端地区の皆さんがトイレの管理を交代で務めていただけるというご支援とご協力をいただいた。感謝申し上げます。

昨年4月から大町市第4次総合計画がスタートした。私の公約を元に大町市総合計画審議会の委員の皆さんに13回にわたる会議で熱心な議論を重ね

る中で作っていただいた。とかくこのような計画は市が原案を作成し委員に承認をもらう形が多い中で、この計画は本当に委員の熱心な検討が反映されている。

大町市第4次総合計画について(ダイジェスト版の説明)

基本理念 将来像・経営像 めざすまちのテーマ(6本の柱)

(懇談開始 19:25)

参加者

平成7年に大雨が降った際に山から土砂が流れ、前沢川から中綱湖に注ぐところに堆積した。現在までその残土処理ができていないため、あくまで個人的な推測だが、中綱湖の湖面水位が50cmほど上昇しているのではないか。このことについては昨年から市の担当課と建設事務所に話をしているが、ある環境団体から農具川の工事によってヌマカイメンやカワシンジュガイが死滅する恐れがあるという申し入れがあるため工事に着手できないという。私たちとすれば農具川の河床を最低50cmはさらっていただきたい。何十年来自治会長からお願いしている事案である。

市長

中綱湖は地域にとっても大町市にとっても大事な観光資源であり宝である。特に、ボートを浮かべない取り組みをさせていただいているため、自然の姿を残している美しい湖である。

まず、中綱湖の水位が高くなっているのは客観的なことかどうか。市担当課・建設事務所も共通認識を持っているかどうか。

参加者

そう思う。現に水田が水没して葦が生えている場所があったり消火栓が逆流したりする箇所がある。JR鉄橋の下の河床を高くしたのも原因の一つではないか。JRの補強工事は10年以上前から何度となく行われている。

参加者

平成7年の災害時には応急的に若干の土砂を上げたが、大量の土砂が湖の中へ押し出された。ボートを出してみればわかるが、ひざ下で歩ける状態。水草も以前はなかったが、今は全面に生えている。

市長

災害が原因で自然環境が大きく変わってしまったものを元に戻すことは比較的容易であるが、長い時間かかってじわじわと変わったものを一気に戻すとなると抵抗がある。これまでの市担当課や建設事務所とのやり取りをふまえて、再度建設事務所に確認をして、文書で自治会長あてに回答する。

参加者

毎年、海の日には農具川岸の草刈りと河床の水草刈りを自治会として行っている。水の流れがよくなればと考え実施しているが、水草は刈ると元気にな

ってしまう。大変な労力がかかるため、県で実施していただけないようであれば地元としてもこれ以上実施することが困難な状況である。河川沿いは手を入れないとすぐにゴミを捨てる人間が出てくる。

市長

先日もゴミゼロの日（5月30日）の前後に、市職員がボランティアで市内のゴミ拾いなど清掃活動を行った。特に、葛温泉へ向かう途中にある鉄橋の上から捨てたと思われるゴミが散乱している場所があり、職員が危険を覚悟で片づけを行った。1つゴミがあると連鎖が起きてしまう。こまめに片づけることが重要である。

参加者

河床が上がった関係で湖水の水温が下がっている。今まで中湖橋から魚が見えていたものが全然見えなくなっている。外来種の駆除をしている人に聞くと19あるという。

市長

先日私も橋から湖面を見たが、見える魚はブラックバスばかりだった。中綱湖はヘラブナつりの人気が高い。水温の変化は湖面が上がったことや青木湖からの水の流入の仕方などが複合的に影響しているのではないかと。

参加者

私はこの地区で民宿を営んでいる。この地区はスキー場を中心に発展してきたが、どこも経営者は高齢化し今年でやめるのやめないの言っているところも多く、過渡期にある。最近「農家民宿」というのが全国で聞かれるが、私たちは許可を受けて営業している。聞くところによると全国の学校が子どもたちに一度は農家民宿に泊まって農業体験をさせるようだ。私たちは本業で民宿をやってもなかなかお客さんが来ない。どうしたらそのような話が来るのか。農家民宿は飯田や松川村にもあるようだが、許可を受けていないところができるのかという意見が民宿組合からも上がっている。今まで頑張ってきたので、市内の民宿が1軒でも無くならないようにしたい。

市長

大町市は、美麻新行や木崎湖周辺を中心に農家民宿を全国に先駆けて取り組んだ地域の一つである。中綱地区は観光資源としてスキー場を抱えており民宿業にとっては恵まれた環境にあるといえる。先ほども申し上げたが、スキー場の魅力にますます磨きをかけることで冬の集客につなげる。もうひとつは緑豊かな環境を生かして年間を通じてお客さんを迎え入れる方法を考えることが必要ではないかと。

市の取り組みとしては、例えば、市では学生のソフトボール東日本大会を昨年誘致した。選手・応援団も含めて安く宿泊したいという要望があり、市内の多くの民宿に受け入れてもらった。市内のスポーツ施設・文化施設を使って、多くのイベント・スポーツ大会を誘致するように努力している。

平成20年度から文科省・農水省・総務省の3省が共同して子どもたちに農村での滞在や農業体験を日本中で行うことになった。初年度は、農水省が全国から50の地域を指定して、モデル事業として受け入れ体制の整備を図っていくことになった。大町市もモデル地域に指定されるべく手を上げて体制作りをしていたところ、地方事務所からの助言もあり北安曇全域で取り組むことになった。農業体験の受け入れは小規模ながら北安曇郡内の町村、市内では八坂・森・山崎でこれまで行ってきており、このノウハウを全域で共有しながら受け入れ体制の整備を行っていく。今はまだモデル地域になるべく枠組み作りをはじめた段階で、市内の民宿経営者の皆さんに声をかけているところである。来年以降は全国の学校で農山漁村での体験活動が実施される予定で、それに間に合うように体制作りを行いたい。多彩な体験メニューの要望が寄せられると思うが、講師の育成なども行っていかねばならず、ご協力をいただきたい。

参加者

民宿業を行うにあたっては、保健所・消防署等の許可を受ける必要があるが、そういったものが何もない農家がどうして民宿を行うことができるのか不思議である。

市長

近隣の農家民宿が許可を受けているかどうかは分からないが、当然、保健所等の許可がなければ有料で宿泊させることは出来ないと思う。今後整備していく仕組みの中では、法令に基づく許可や必要な手続きについて、行政としてお手伝いしたい。

参加者

農業体験を受け入れるにあたって、最近ではサルによる農作物への被害が深刻である。いろいろな地区で間伐を行って効果が出ているようだ。中綱地区は周囲を山に囲まれてすり鉢の底のような地形だが、ここで間伐を行っても効果があるのかどうか。

市長

昔はいなかったニホンジカやイノシシをこの地区でも見かけるようになった。自然が豊かになったという見方もあるが、人間の生活に害を与えるようではいけない。間伐の話が出たが、里山を整備して人間と自然の領域を明確に線引きすることにより、動物に警戒心を与えることが必要である。長野県では今年から森林税が導入されたが、有害鳥獣対策の財源としても活用される。大町市はサル・クマによる被害が深刻化したため早くから平・常盤地区において間伐を行っている。特に山林所有者の皆様のご了解、ご理解、ご負担をいただいて進めているが、森林税の導入により負担が少なくて済むような仕組みづくりを県が作り始めているところである。

数日前に村井知事が大北を視察した。大町市では農産物直売所と清水地区の間伐とモンキードッグを視察して、モンキードッグをいたく気に入った様

子だった。大町市では年に3～4頭のモンキードッグを養成している。中型犬以上であれば犬種を問わず警察犬訓練所に入れて3～4ヶ月間の訓練を行っている。飼い主の方には養成費用の1/2を補助している。これまで16頭のモンキードッグを養成したが、うち2頭は殉職、1頭は老齢のため休職中で、現在13頭が清水から上原にかけて点在し活躍している。大町市周辺では現在9つのサルの子を群れを確認して、生息数は約500と推定されている。群れごとに発信機を取り付けてあるので、専用の受信機でサルが近づいてきたことを知ることが出来る。サルが出たら人間とモンキードッグによる追い払いを行う。モンキードッグは2時間も山の中でサルを追うようである。モンキードッグが配置されている地区はサルも警戒して迂回するようである。毎年4頭程度の養成予算を計上していきたいと考えている。間伐やモンキードッグがそれだけでは特効薬とはならないが、あらゆる手段を講じ組み合わせながら効果を上げていきたい。ご協力をいただきたい。

参加者

テレビ放送が2011年7月にデジタル放送に切り替わる。当地区はNHKでも調査をしてもらったが、非常に電波の入りが悪い。行政として受信環境の整備をお願いしたい。

市長

テレビは市民の皆さんに情報を伝える基礎的な、また扱いやすいものである。平成23年7月に地上波はデジタル放送に切り替わる。昨年、美ヶ原に続いて小熊山からも地上デジタル放送の電波が発信されたことに伴い、市内全域で受信状況を調査した。結果、大部分の市域において美ヶ原または小熊山からの電波を受信できた。しかしながら、中綱・青木・築場・宮本・曾根原・鹿島・高瀬入などの一部の地域で受信環境が悪かった。これまでのアナログ放送の受信環境が悪かった地域とほとんど同じである。大町市としては対応策を準備しているところである。

参加者

長野オリンピックの開催に向けて長野～白馬ルートが整備されると発表になった時は当初青木湖入り口へ出てくるということだったが、いつのまにか直接白馬へ抜けるというルートに変更されてしまった。その際変更にあたり青具築場停車場線を整備するという条件があった。それから2～3年は県が3000万円くらいの予算を毎年つけて道路拡幅などを行ったが、今は止まってしまった。書面での約束ではなかったが、県に働きかけて工事を継続していただきたい。

市長

長野オリンピックの白馬会場が決まった当時、ちょうど財政課で公共事業の予算を担当する係長をしていた。当時の道路建設課長補佐等と何度か現場を見た。青具から白馬へどう抜けるのかという検討を行った。中綱に出るルートも確かに検討されたが、トンネルの出口がずいぶん高い位置になってし

まい、降りてくる道路の整備が必要となり、良いルートとはいえないのではないかということになったと聞いている。青具築場停車場線の改良を県が約束したという話は初めて聞いたが、必要な道路であれば改良を進めていかなければならない。県の道路関係予算は非常に厳しいものがあるが、建設事務所に確認をして改良を進めていただくようお願いする。

参加者

平成7年に深山口で起こった水害の復旧工事について、北沢水系までU字溝が入ったがその後途中で止まっている。県単の事業で平成15年を最後に行われていない様子。県は、市の行う下流の河川工事が終わっていないことを理由に工事を行わない。

市長

人命にもかかわることであるので、状況を調べて、建設事務所とも相談して、今後の見通しについて文書で自治会長さん宛に回答する。

参加者

ラーバン中綱について、当時グリーンツーリズムや都市と農村の交流を目的に農水省の指導もあり建設された。数年すると軌道に乗ったということで中綱地域集団農業組合に管理運営が移管された。しかしながら、利用は少なく維持管理費がかさみ、積立金を食いつぶしている状況である。この施設の有効利用について何かお知恵をいただきたい。

市長

ラーバン中綱は体育館と土産物販売その他の複合施設となっている。スキー場が元気だった時代に建設された施設で、今になってみれば維持管理費が重くのしかかっている。気になっていたので、担当課から話は聞いてきたがなかなか妙案はないようである。

参加者

立川市との姉妹提携がされた当初は活発に交流があり、その中で多少利用があった。今はほとんど交流がない。

市長

立川市との交流は、観光キャンペーンや野球などのスポーツ交流など限られた分野になってしまっている。

参加者

「ラーバン」という名称も、元々、都市＝アーバンと田舎＝ルーラルの交流を目指したところから命名された。地元としては体育館を要望していたが補助金の関係で現在のような設計になった。農水省のごり押しがあり、反対するものも多かった。維持管理費についても、電気水道ガスなど切り詰めるものはすべて行ってきた。積立金もあと1～2年で底をついてしまう。

市長

せっかくあるものなので活用する方法を考えていきたい。一過性のイベントだけではだめである。市街地にもこうした施設はあるので、担当課と相談して活用策を検討したい。

参加者

地域高規格道路について、ルート発表が秋口に行われるということだが、昨年から延び延びになっている。本当に秋には発表なるか。

市長

冒頭のあいさつで申し上げたのは、県2月定例会での建設部長の答弁であり、何人かからの質問に対しても同じ答弁をしていた。ある程度正確に申し上げると、平成19年度中に県土木部はルート選定にあたっての比較検討調査の結果が3月までに出るのを受けて、土木部としての技術的な検討を整理する。その後、上層部（知事まで）の検討の結果を踏まえて、ルート案を6月までに関係市町村に示す。関係市町村との意見交換をしたうえで、県として秋にルートを決定すると言っていた。

参加者

ルートとは、具体的にどのように示されるのか。

市長

「長野県側の全体像」という言い方だった。2月定例会ではその範囲でしかなかったため、私は以前土木部の監理課長を務めた関係で知り合いの職員に探りを入れてみた。ルートについては1本だけか、複数かなどいろいろ質問したが、正確な答えは返ってこなかった。市町村のルートは市町村で決定するというような丸投げ方式や関係市町村だけに示して自治体内部の検討だけで済ますような方法は出来ません、やめてくださいという要望はした。6月県議会が終わってから示されるのではないかと推測している。

参加者

この地域は光回線がまったく使えない。美麻・八坂は村時代に整備されて使えると聞いている。なんとかならないものか。

市長

美麻・八坂地区は村時代に補助金を入れて光ベースのCATV網を全村に整備した。旧大町市地域は民間事業者であるACVが白馬まで営業エリアを広げているが、中綱地区はエリア外になっている。光回線はNTTも整備しており、大町・社地区は整備が済んでいる。昨日発表されたが、常盤地区も整備された。常盤地区は署名活動を行い、NTTに申し入れを行ったと聞いている。今、平地区でも同様の動きがあると聞いている。NTTは民間企業であるので、ある程度の採算性が見込まれれば整備に着手するのではないか。市としてもNTTに要望していきたい。

市長お礼の言葉

本日皆さんとお話させていただき、なかなか解決できない様々な問題があることを強く認識した。地域の皆さんとこうして会を重ねる中で課題を課題として一緒に共有し、なんとか解決に向けて取り組むのも市長の務め、行政の役割である。皆さんと一緒に知恵を絞り、力を貸していただきたい。

自治会長 閉会のあいさつ

(2 0 : 5 0 終了)